

教育施設等の整備で
歳出額増

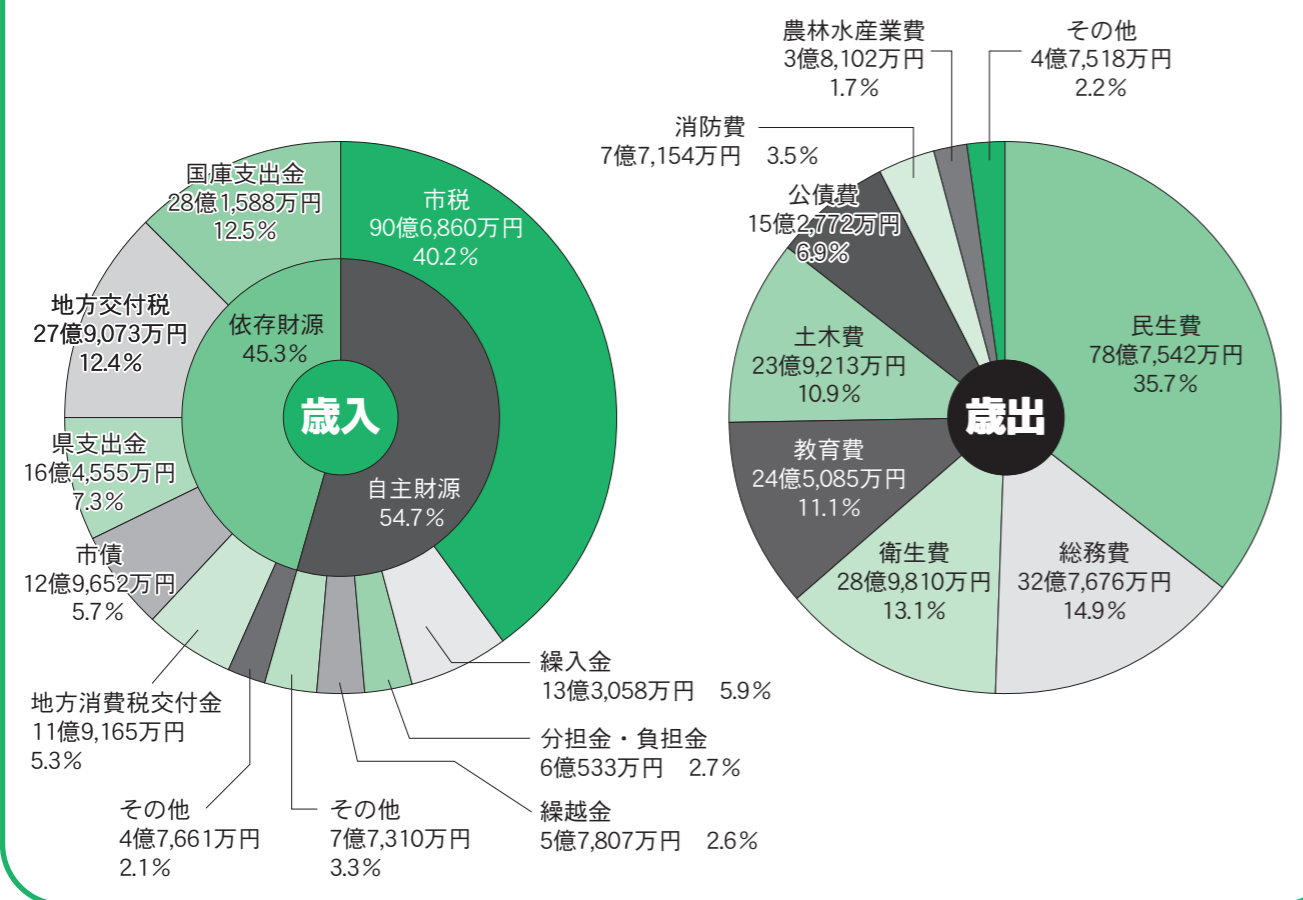
会計別歳入歳出決算

会計別	歳入(収入済額)	歳出(支出済額)		
一般会計	225億7,262万円	220億4,872万円		
特別会計	国民健康保険	77億332万円	71億9,191万円	
	介護保険	51億5,681万円	49億2,515万円	
	簡易水道事業	650万円	538万円	
	下水道事業	23億4,827万円	22億6,219万円	
	羽島市・羽島郡二町介護認定審査会事業	2,322万円	2,322万円	
	インター北土地区画整理事業	2億213万円	1億4,610万円	
	駅北本郷土地区画整理事業	1億4,660万円	7,120万円	
	後期高齢者医療	7億2,342万円	7億787万円	
	企業会計	病院事業	60億6,534万円	59億3,013万円
		収益的収支	1億765万円	3億9,150万円
資本的収支		7億5,866万円	5億3,300万円	
上水道事業		1億5,445万円	5億6,418万円	

30年度 羽島市一般会計決算

歳入
225億7,262万円

歳出
220億4,872万円



平成30年度の一般会計・特別会計・企業会計の決算が市議会で認定されました。市の決算状況のあらましをお知らせします。

■問い合わせ先
財務課(内線2382)

一般会計

歳入
歳入全体の決算額は225億7,262万円、前年度と比べて11億7,506万円、約5.5%増加しました。歳入には、地方公共団体が自主的に収入することができ、市税や手数料などの自主財源と、国や県から交付される依存財源があります。自主財源が多いほど、行政活動の自主性と安定性を確保することができます。

30年度の歳入決算額に占める自主財源の割合は、前年度より0.9ポイント高い54.7%となりました。これは、自主財源である緑入金の増加によるものです。

歳出

歳出の決算額は220億4,872万円、前年度と比べて12億2,923万円、5.9%の増加となりました。内訳を見ると、保健医療や福祉等の民生費が35.7%と最も比率が高く、約79億円を支出しています。次いで総務費が14.9%、衛生費が13.1%を占めています。

また、教育費は7億2,342万円増加しています。主な要因は、竹鼻中学校武道場の整備や、学校給食費の公会計化によるものです。

借金の返済額である公債費は、前年度と比べて44,399万円増加しています。

市民1人当たりの負担

市民1人当たりの市税の負担は、13万3,953円で、前年度と比べて19円の負担増となっています。

市債残高の状況

30年度一般会計決算での市債残高(借金の残高)は、約170億円で、前年度と比べて約1億円減少しました。今後も、計画的に市債残高の減少に努めます。

特別会計

特別会計のうち、国民健康保険は、県移管による共同事業拠出金の減などにより、歳出が前年度に比べ10億7,794万円(13.0%)減少しました。一方、介護保険は、介護給付費の増などから、前年度より歳出が3億5,513万円(7.8%)増加しました。

企業会計

独立採算で運営する企業会計には、病院事業と上水道事業の二つがあります。病院事業では、入院患者数増加により、前年度より収益的収入の医業収益が1億4,211万円(2.0%)増となりました。

経常収支比率

経常収支比率とは、市税や地方交付税などの経常的な収入に対し、人件費や扶助費などの経常的な支出が占める割合のことです。財政の弾力性を示す指標です。この指標が低いほど財政の弾力性があり、自治体独自の施策に充てる財源が多くなるといえます。

